＜九州運輸振興センターの表彰式＞

2018 年、鹿児島県は二つの世界自然遺産を抱える自治体となります。1993 年に世界自然遺産に登録された屋久島がありますが、これに加えて、奄美群島と沖縄の一部が今年度世界自然遺産に登録される見込みです。この登録は九州圏、とりわけ離島地域に大きな「観光」というインパクトを与えるでしょう。観光政策でよく言われる起爆剤となるわけです。

先に登録された屋久島で次のような興味深い議会でのやり取りがありました。町の観光資源である縄文杉への観光客の多流入によって根元の踏みつけにより生育への影響が懸念されました。そこで、2012 年 3 月の施行を目指して「屋久島町自然観光資源の利用及び保全に関する条例」の制定に関する議案を 2011 年 6 月に提出しましたが、本会議において全会一致で否決されたそうです。当時の議会特別委員会副委員長は、「自然環境を守るために観光客を制限する必要性は理解しているが、観光産業にあまり影響を与えるべきではない」と述べました。地域政策として観光政策を推し進め、「観光と環境」のジレンマが存在しています。

話しは変わりますが、私は北海道出身です。ご存知のように北海道には日本で唯一財政破綻をした「夕張市」があります。夕張市は、「炭鉱から観光へ」と掲げまさに、地域政策として観光政策を進めました。その甲斐もあり観光客も右肩上がりに増加しました。しかし、バブル崩壊の影響で、観光政策の破綻に終わってしまいました。

屋久島や夕張市は、立地こそ異なりますが、いずれも地域政策として観光政策を行い、観光政策に懸念材料を抱えています。これから奄美大島は観光政策をより強力に推し進め経済の活性化を図ることが見込まれますが、屋久島や夕張市を反面教師とし、稀有な自然を維持しながら地域政策として観光政策を進めてもらいたいという願いを込めて、この論文を執筆し、優秀賞をとれたことを大変うれしく思うとともに、「天国に一番近い島」をこれからも残していってほしいと思っています。

私の指導教員である山﨑教授の著書、「地域創生のデザイン」の離島版という意味を込めて、本論文を「離島地域のデザイン」としました。そして、本論文作成でお世話になりました山﨑教授をはじめ、すべての皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

中央大学経済学部経済情報システム学科 3 年
中山裕太